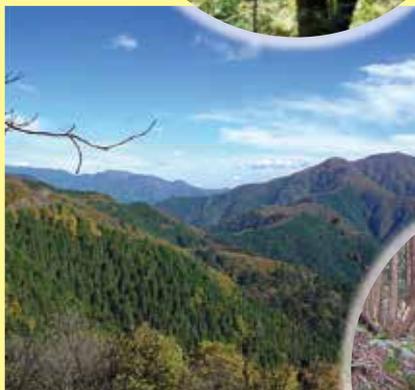


# 森づくりについて考えよう

森のヒミツ・森のチカラ



## はじめに

毎年たくさんの人が花粉症に悩まされています。

東京の森林面積は、東京都の面積の約4割を占めており、その面積は約7万9千ヘクタールに及んでいます。そのうち、多摩地域には約5万3千ヘクタールの森林があり、山間地にはスギ・ヒノキ等の人工林が多く広がっています。

東京都では、花粉症の原因となる花粉を減らすため、花粉を多く出すスギやヒノキを伐って、花粉の少ないスギなどに植え替える「花粉の少ない森づくり」を進めています。

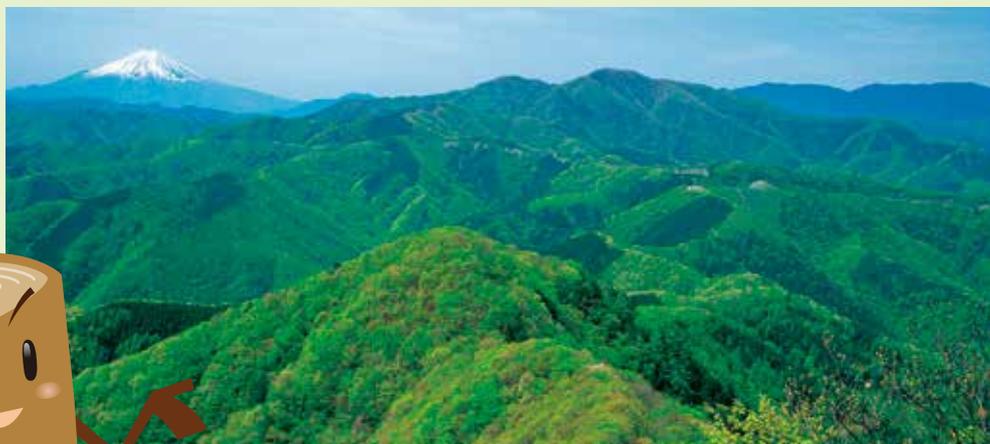
植えた苗木が生長し、森となるまでには長い年月と多くの人手が必要です。

このため東京都は、都民のみなさんと一緒に花粉の少ない森づくりを進められるよう、花粉の少ない森づくり募金への協力や、森林ボランティアへの参加、東京の木「多摩産材」を使ってもらうことを広く呼びかけるなどの「花粉の少ない森づくり運動」を行っています。

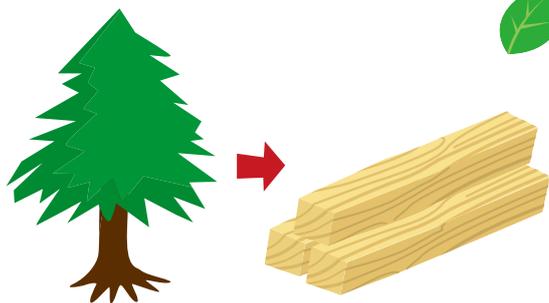
また、この運動を多くの人に知ってもらい、みなさまからより一層の協力を得ることや効果的な取組みを検討するための「花粉の少ない森づくり運動推進委員会」を設置しています。

この冊子は、多くの人に「森の大切さや」や「花粉の少ない森づくり」を知ってもらい、この運動を広げていくことを目的に、花粉の少ない森づくり運動推進委員会が監修・作成しています。

花粉の少ない森づくり運動推進委員会



# 森の秘密。いくつかわかるかな？



## 森は木材をつくるためだけに育てるの？

No!

森は、洪水を防いだり、地球温暖化の主な原因である二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸収するなど、私たちの気づかないところで、私たちの暮らしを支えています。

▶▶ 3 ページをみてみよう

## 木を伐ると、森が荒れるって本当？

No!

「木を伐ると環境が破壊される」という話を聞きます。しかし、人の手で植えられた森(人工林)は、手入れをしなければ荒れていきます。木を植えるだけでなく、大きく育った木は伐って植えかえたり… 私たちがきちんと世話をしないと、森の健康は保てません。



▶▶ 7 ページをみてみよう

## スギ花粉を減らすために、またスギを植えるって本当？



Yes!

スギ花粉を減らすためにも、多摩のスギ林は伐採されています。木を伐ったあとには、花粉の少ないスギや広葉樹などの苗木を植え、「森づくり」が行なわれています。

「木を伐って木材として利用し、また植えて育てる」この繰り返しを「森の循環」といいます。健康な森づくりのためには、「森の循環」が大切です。

▶▶ 9 ページをみてみよう

## 森を育てるために必要なチカラ

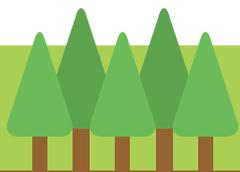
森の手入れをするために、いろいろな人が森づくりにかかわっています。

▶▶ 11 ページをみてみよう

## 地球温暖化対策と森づくり

最近よく聞く「地球温暖化」と森づくりについて考えみましょう。

▶▶ 13 ページをみてみよう



# 森がもつチカラ

あまり知られていませんが、森は木材をつくるためだけにあるわけではありません。私たちに役立つチカラをたくさんもっています。ここでは、そのチカラを紹介し<sup>しょうかい</sup>ます。

## 空気や水をキレイにしてくれる

### 森は「天然の空気清浄機」

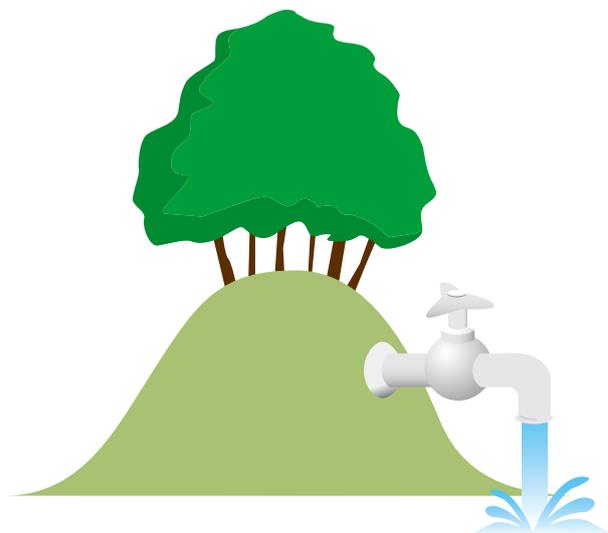
世界中で問題になっている地球温暖化は人間の生活から出る二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が主な原因です。森は光合成によりCO<sub>2</sub>を吸って酸素を出します。

森を育てることは、CO<sub>2</sub>の減少につながり、地球温暖化防止に役立ちます。



### 森は「天然の浄水器」

森が蓄えた水は、ミネラルなどをたっぷり含んだおいしい水になります。



### 森は「天然のクーラー」

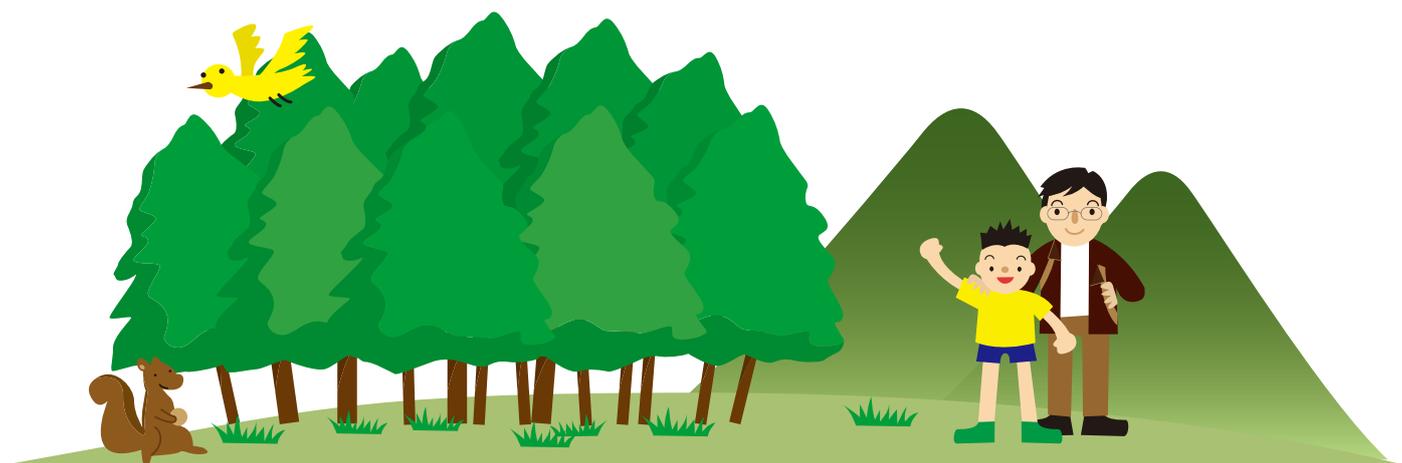
木の葉が日差しをさえぎってくれるだけでなく、森が蓄えた水が木々の葉から蒸発することによって周りの気温を下げてくれます。



## 大地や生き物を守ってくれる

### 森は「みんなの防波堤」

木は土の中にたくさんの根をはりめぐらせています。もし雨が降ったとしても、森の木々の根や土がスポンジのようなはたらきをして、一度に<sup>あまみず</sup>雨水が流れ出されないため、わたしたちのまちが<sup>みずびた</sup>水浸しになるのを防いでいます。



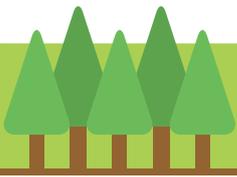
### 森は生き物たちのすみか

いろいろな植物がしげった森は、食べ物が<sup>ほうふ</sup>豊富で、動物が安心してすむことのできる場所になっています。

### 森は憩いの場

おいしい空気・水にあふれる森は、おとずれた人の気分をほっとさせてくれます。山歩きを楽しんだり、キャンプをしたり、遊び方はいろいろです。

▶▶ 19 ページをみてみよう



# 木はやさしい資源



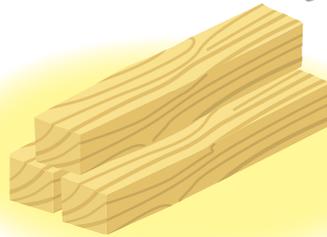
森から伐り出され、加工された木材にも隠れたチカラがあります。ここでは、そのチカラを紹介します。

## 地球にやさしい資源

### 木材は再利用ができる

解体した家から出る木材やあまった木材は紙や燃料に再利用できるのが魅力です。

他の資源に比べて再利用するときエネルギーが少なくすみます。



### 木は育てればなくなるらない

石油は数十年後にはなくなるだろうと言われています。木は、伐った後に苗を植え、新しい木を育てていけば使い続けることができる資源なのです。

## 私たちを守ってくれるやさしい資源

### 木でつくった建物は体にやさしい

たくさん木つかを使って建てられた校舎こうしゃや老人ホームろうじんでは「インフルエンザにかかりにくい」という調査結果ちゆうさ けっかもあります。

また、カビやダニの発生を抑えるはたらきおさがあり、住んでいるわたしたちをやさしく守ってくれるのです。

木材は、コンクリートと比べて高い断熱性だんねつせいがあるから、夏は涼しく、冬は暖かくあたたかすごせるよ

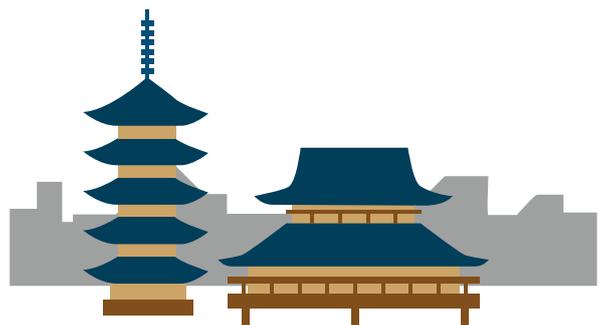


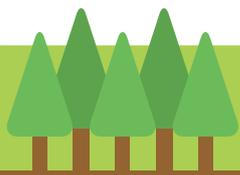
木材の持つ香りかおやぬくもりは、人の心をなごませ、いやす効果こうかがあります。

衝撃しょうげきを吸収するチカラが大きいので、コンクリートなどに比べて、転んだりしても大きな怪我けがをしにくくなります。

### 木は丈夫で長持ち

有名な奈良ならの法隆寺ほうりゅうじの建物は約1300年以上前に建てられた古い木の建物です。日本の気候きこう、風土ふうどで育った良い木材でちゃんと組み立て、手入れをすれば木の建物は長持ちするのです。





# 人が植えた森には、手入れが必要です

東京には、いまから50年ほど前に人の手で植えられた森（人工林）がたくさんあります。これらの森には長い時間かけて育てられたスギやヒノキがあり、木材として伐ることができる時期を迎えています。しかし多くの森は伐られずにいます。どうしてなのでしょう？



## 森の手入れは大変！

多摩の山では、昭和30年～40年代にたくさんの木が植えられました。木を植えたあとには、森の世事に何十年もの長い時間と多くの人手が必要となります。

▶▶ 9 ページをみてみよう



昭和40年代の高度経済成長期にたくさんの木材が必要になり、外国から丸太だけでなく、建材としてすぐに使うことのできる角材などが、安く大量に輸入されるようになりました。

外国の木材との競争などにより、木材の価格が安くなりすぎたため、木が伐られなくなりました。



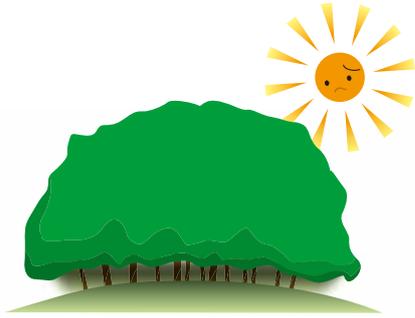
林業の経営は苦しくなり、森の手入れに必要な費用が賄えなくなったことから、あまり手入れがされず、荒れている森が増えていきました。

木がたくさんあると健康的に見えますが、手入れのされない森の中を見てもみると、困ったことが起きています。



荒れている森では・・・

木々がすき間なく生長して、  
森の中まで光が届かなくなる。  
また、混み合っているので、  
木が太く丈夫に育ちにくい。



光がないと草が育たない



動物たちが生きて行けない

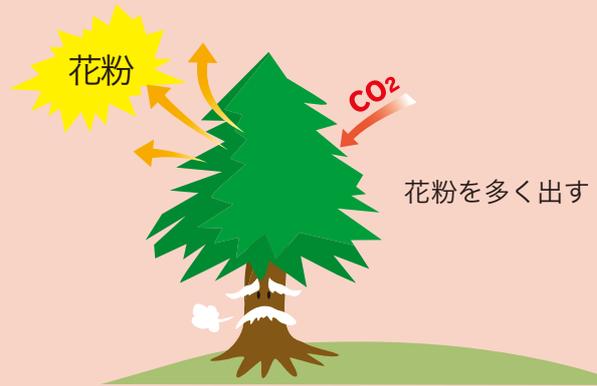


土がやせて、したくさ下草が育たず動物たちの食料しょくりょう  
が減って暮らせなくなってしまいます。

さらに、こんなことも



としお年老いた木ばかりの森になるとCO<sub>2</sub>の吸収が減る



スギは生長が進むとCO<sub>2</sub>の吸収量が減りますが、花粉の量りょうは増えていきます

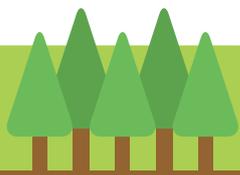
きちんと手入れを  
されていない森は  
本来持っているチカラを  
どんどん失っていくのです。



こうずい洪水やどしゃくず土砂崩れを防げなくなる



雨水を蓄えるチカラが弱くなり、  
洪水や土砂崩れがふえます。



# 健康な森に大切な「森の循環」



きちんと森の手入れをして、木材を伐って使う、苗を植えて育てることを繰り返すと「森の循環」が完成します。「森の循環」によって、森が本来もっているチカラを十分に発揮してくれる健康な森になるのです。



**「花粉の少ないスギ」**

東京都では、現在、「花粉の少ない森づくり」のために、伐採と花粉の少ないスギなどの植え付けを進めています。

花粉の少ないスギとは、いままでのスギと比べて花粉の数が1 / 100 以下のものを言い、東京でも2つの品種が開発されています。

## 木材を運ぶ

多摩の森林から都内へ運べば、移動いどうが少ないので、使うエネルギーを節約せつやくできます。

## 木材の利用

木材を使って建てた家や木製家具もくせい かいぐは、大気中のCO<sub>2</sub>を増やさないとつながります。

## 加工する

森から伐り出された丸太を板や角材、合板ごうばんなどに加工します。

合板は、丸太をかつらむきにしてできた薄板うす ぼうを木目が交差するように貼り合わせて1枚の板にしたものです。

## 木材を運ぶ

製材のときに残った木材は、紙の原料げんりょうとして使われるほか、燃料用の「木質ペレット」にも加工されます。

## 燃料として使う

木質ペレットなどは、ボイラーやストーブの燃料として利用されます。

## 木材の再利用

古い家などに使われていた木材は、再利用することで、建材や家具などに生まれ変わります。

# 「木材を使う」

身近な森の木材を使うことが、木の伐採につながり、森の循環に役立ちます。

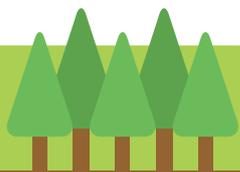
## スギは建材に適した木材

スギは日本固有の品種で、他の木と比べて、早く、まっすぐに育つ特徴とくちょうがあります。

また、スギは建物を建てるときに使う「建材」として、ヒノキならと並んで、古くから日本各地で植林され、わたしたちの生活に利用されてきました。

スギは便利な木なんだよ!





# 森にかかわるチカラ



長い時間をかけて、健康な森を育てていくためには、さまざまな人のチカラが必要です。

どのような人が森にかかわっているのでしょうか。

## 森を守る／育てる

山に入って、大きくなった木を伐る、ざっそう雑草などを刈るなど、森を育てる仕事があります。  
(りんか林家、りんぎょうじゅうししゃ林業従事者)

※林家とは、山林を保有している世帯をいいます。



## 木材を使って物をつくる

板や角材、合板などから、家具や家を作る仕事があります。  
(もくざいか木材加工業、けんちくぎょう建築業)



## このほかにも・・・

山の手入れや木を伐り出すときには、車やせんよう専用のきかい機械を使います。このような車などが通れる道（りんどう林道）を作る仕事も必要です。





## 木（丸太）から木材をつくる

山から切り出された丸太は、市場などをおして工場に運ばれ、板や角材、合板などの木材に加工されます。加工された木材は問屋などをおして売られます。

このように丸太から木材を作ったり、届けたりする仕事があります。

(製材業、合板製造業、木材流通業)



## 森のめぐみ（林産物）を活用する

しいたけなどのキノコ類やくるみなどを採る仕事も森にかかわる仕事です。また、薪や炭、竹製品を作るといった仕事も森にかかわりがあります。

(林産業)



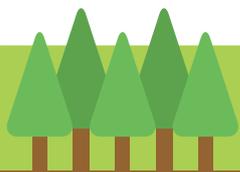
## 東京の森のサポーター

最近では、森の木を育てる人が少なくなったことから、山の木を伐ったり、雑草を刈ったりすることをボランティアで手伝う人たちがいます。また、多くの人たちに森のことを知ってもらおう仕事として、自然観察会などを開く人たちもいます。

(森林ボランティア、レンジャー)

台風などの大雨で山がくずれたときに、そのままでは危険なため、がけくずれを治し、森を元の様子に近づける仕事があります。





# 地球温暖化対策と森づくりについて



地球上で、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)などが増えすぎて、地球の気温が上がってきていると言われています。このことを「地球温暖化」といいます。

森は二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸収する働きがあることから、森づくりは地球温暖化対策のためにもとても大切なことです。しかし森づくりのために木を植えただけで、そのあと何もしなければ、やはり森は少しずつ荒れていきます。

人の手で木を植えたあと、きちんと手入れをして、木を伐って、利用し、また植えることは、健康な森をつくり、環境を守ることになるのです。

**木を伐る≠環境破壊**

木は生長するときに光合成を行って、若い木ほど二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を多く吸収し、根・幹・葉などに炭素を蓄えます。木材になっても炭素を蓄え続けるため、木造住宅や木工製品などとして使われている間、膨大な炭素を大気中に戻さず、大気中の二酸化炭素を増やさないことにつながります。

生長した木を伐って、利用し、新しく苗木を植えるといった森の循環は、大気中の二酸化炭素の吸収につながり、地球温暖化対策にも役立ちます。



**木を使う=環境を守ることに役立つ**

## 身の回りの「木を使ったもの」を調べよう!

身の回りにある机や棚など、木でできたものを探してみましょう。



## 多摩の木をもっと使おう!

東京にある多摩の森の手入れをすすめるためには、その森で作られた木を使うことが大切です。

木を使うことは、森の手入れと新たな木を育てることにつながります。

## 木を使うことはCO<sub>2</sub>を増やさないことにも役立ちます。

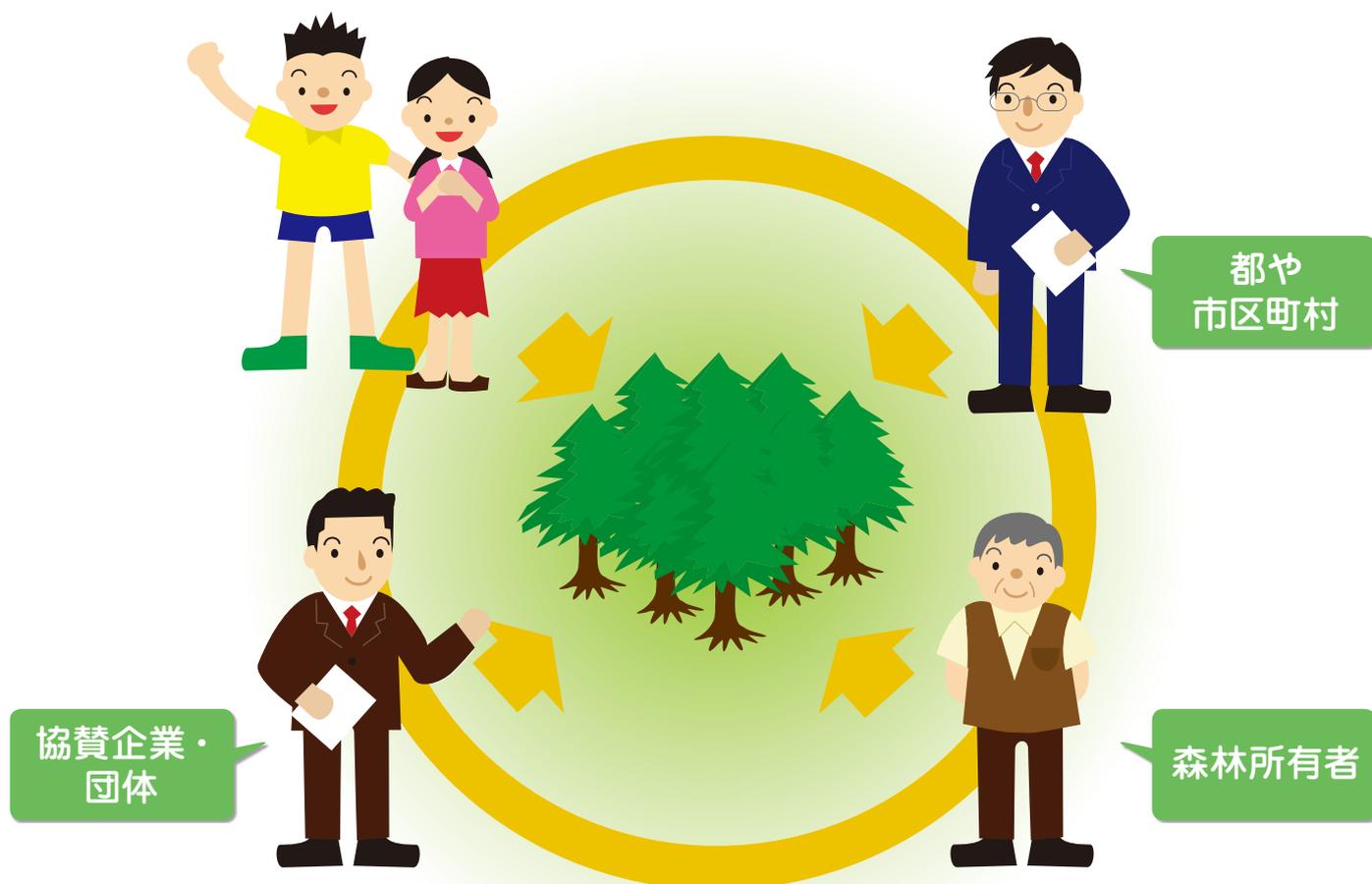
- 鉄やコンクリートと比べて、木は加工するときにあまりCO<sub>2</sub>を発生させません。
- 輸入された木より、身近な森の木のほうが、運ぶときに発生するCO<sub>2</sub>が少なくて済みます。



## みんなの森をみんなの手で

最近、民間の会社で、「より良い社会」をつくることに協力する活動が行われるようになってきました。その活動の一つとして森づくりに参加し、森の手入れを手伝う活動や費用を負担するといったことも行われています。

森づくりは、地球の環境を守っていくためにとても大切です。森林の持ち主や役所だけでなく、いろいろな人たちが協力していくことも大切です。

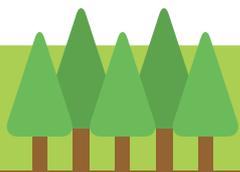


## 東京の森づくりに参加しよう

国・都・区市町村などの役所や民間企業、ボランティア団体などでは、森の様子や森づくりを知るための勉強会（自然観察会）、木を植える会（植樹会）などを開いたりすることがあります。

東京の森を知るため、みなさんも「森づくり」を体験してみませんか。

▶▶ 21ページをみてみよう



# 花粉飛散のしくみ

東京の多摩地域には、人の手で植えられた森（人工林）がたくさんありますが、森のない都心でも花粉が飛ぶのはなぜでしょうか。ここではスギ花粉が飛ぶしくみを紹介します。



スギ花粉を出す雄花は7月頃から形成され始め、11月頃には花の中で花粉が成熟します。



気温が低くなったり、昼の時間が短くなったりすることで、雄花が休眠状態に入ります。



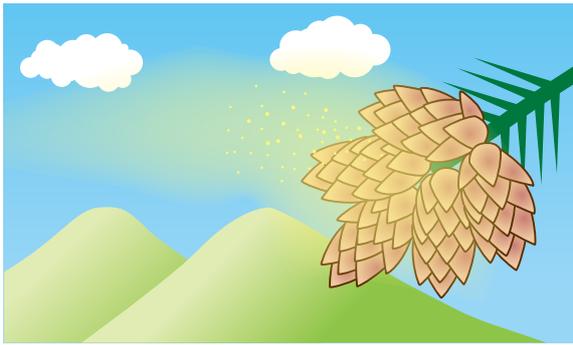
冬の寒さに一定期間さらされることで覚醒し、花粉の飛散に向けて準備を始めます。



## スギの花はどんな色？

スギの葉は、細長く先がとがっています。このとげとげした葉をもつスギに、どんな花が咲くのでしょうか？

▶▶ 次ページをみてみよう



東京では2月頃から5月上旬頃まで花粉が飛びます。花粉の飛ぶ量は、飛び始めから徐々に増えていき、スギ花粉は3月頃に特に多くなります。



次のような日は花粉が多く飛ぶので、注意が必要です。

- 1 最高気温が高めの日
- 2 雨上がりの翌日で天気が良い日
- 3 風が強く晴天で乾燥した日

▶▶ 17 ページをみてみよう

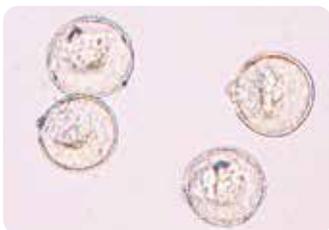
## スギの花はこんな色

スギは、風によって花粉を運ぶ植物であり、「風媒花（ふうばいか）」といわれます。みなさんがよく知るサクラやチューリップなどのように、目で楽しめるような鮮やかな色の花はつきません。

スギの花粉は軽いため、風に乗ると遠くから運ばれてきます。200キロメートル以上離れたスギ林から、花粉が都心まで飛んでくることもあります。

花粉は植物の種類ごとに様々な大きさや形をしています。花粉一粒の大きさはとても小さいため、観測には顕微鏡けんびきょうが必要です。

スギ花粉の大きさは、1mmの30分の1くらいで、たくさん集まることで黄色く見えます。



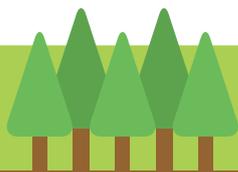
顕微鏡けんびきょうで見たスギ花粉



雄花（12月中旬）



雌花めばな（3月上旬）



# 花粉症の予防のために

花粉症は、花粉が原因となりますが、花粉を全く吸いこまなければ症状はでません。  
 また、花粉を吸いこんでしまっても、その量が少なければ症状も軽く、服薬等により  
 症状を抑制しやすくなります。つらい症状を軽減させるには、花粉をできるだけ避ける  
 ことが重要です。

## 花粉シーズンの生活の心得(こころえ)



### 風邪をひかない

花粉の飛散シーズン前に風邪を引くと、粘膜の上皮が弱くなり、花粉症の症状がひどくなることがあります。



### 外出時はマスクやメガネを着用する

花粉の飛散シーズンに外出する場合は、マスクやメガネを着用し、花粉が目や鼻などにつかないように注意しましょう。帽子をかぶることも効果があります。



### 洗濯物はできるだけ屋内干し

なるべく室内に花粉を入れないようにしましょう。

## 大人の方は…



### お酒を飲みすぎない

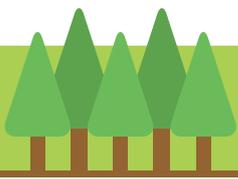
鼻づまりを悪化させる可能性があります。



### たばこも控えめにする

たばこも粘膜を傷つけます。

花粉症にならないための一番の予防法は、花粉を体内に取り込まないことです。  
 現在、花粉症でなくても、早い時期から予防を始めるとよいでしょう。



# スギとヒノキを知らよう

たくさんの種類がある木の中で、木材として利用される木にスギやヒノキが多いのには、理由があります。スギやヒノキが持つ特徴をみてみましょう。

## ● スギ

ヒノキ科 針葉樹



スギは、木目に沿って割れやすく、<sup>まきわり</sup>薪割りのように割ることによって、角材から板材までを作ることができます。この性質から、大きな機械がなくても丸太の状態から簡単に木材にすることができたため、昔から重要な木材として<sup>ちようほう</sup>重宝されてきました。<sup>けんちくざい</sup>建築材として最も多く用いられ、<sup>たてぐざい</sup>建具材、<sup>わり</sup>割り箸など、身近なところで使用されています。

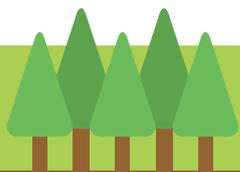
## ● ヒノキ

ヒノキ科 針葉樹



ヒノキも建築材としてよく使われる木ですが、スギと同じ樹齢でも、ヒノキはスギの半分ほどの太さにしかありません。カンナなどで削ると、美しい<sup>こうたく</sup>光沢やヒノキ特有の<sup>とくゆう</sup>香りが出てきます。

<sup>たいきゆうせい</sup>耐朽性が高く、<sup>けいこう</sup>湿気にも強い傾向があります。特に菌や虫などに対する<sup>たいせい</sup>耐性が強く樹齢の古いものは伐採後、200年程は強度が上がると言われている程、とても耐久性に優れた木材です。お寺や神社の建築などには、なくてはならない木です。



# 森とふれ合える場



東京都には森や自然を体験できる施設があります。  
 体験教室で自然の素材でモノづくりを楽しんだり、動植物とふれ  
 合ったり・・・遊び方はいろいろです。

## 東京都立奥多摩湖畔公園 山のふるさと村

「山ふる」の愛称で親しまれる、奥多摩湖南岸に面した自然公園施設です。湖に注ぎ込むサイグチ沢に沿った34haの敷地内では自然体験の指導や、自然の素材を使った工作体験、木の温もりを感じるケビンやキャンプ場での宿泊など、さまざまな自然体験が楽しめます。

**主なイベント** 木工教室（本立て、小物入れなど）、石細工教室（石を加工してペンダントやカードスタンド、表札など）、陶芸教室（形作り、色つけなど）、そば打ち体験

**場所**：東京都西多摩郡奥多摩町川野 1740  
 Tel.0428-86-2551

**交通**：JR青梅線奥多摩駅から丹波・小菅方面バス30分  
 小内神社前下車徒歩40分 車：中央道八王子ICより一般道 JR青梅線奥多摩駅から無料送迎バスあり（土・日・祝日）

**ホームページ**：<http://www.yamafuru.com/>

**施設**：ビジターセンター、クラフトセンター、キャンプ場サービスセンター、ケビン・キャンプ場、レストラン

**面積**：34ha

奥多摩町

山梨県

奥多摩湖

檜



## 東京都奥多摩都民の森（体験の森）

奥多摩三山のひとつ御前山のふところに広がる体験型の施設。植林や間伐などの森づくり作業や溪流釣りなどの山里生活の体験、山歩きなどが体験できます。

宿泊できる「栃寄森の家」もあり、森での体験後に木肌のぬくもりに満ちた空間や季節の山菜を取り入れた食事を楽しめます。

**主なイベント** 夏休みこども森林体験、親子で溪流釣り、おくたま山里歩き

**場所**：東京都西多摩郡奥多摩町境 654 Tel.0428-83-3631

**交通**：JR青梅線奥多摩駅から奥多摩湖方面バス 10 分、境橋下車徒歩 45 分 車：中央道八王子ICより一般道約 45km

**ホームページ**：<http://www.tomin-no-mori.jp/>

**施設**：栃寄森の家（宿泊室、研修室、食堂・ホール、浴室）、作業舎、休憩舎 **面積**：82.7ha



青梅市

奥多摩駅

御嶽駅



## 東京都檜原都民の森

奥多摩三山の最高峰・三頭山の中腹に広がる都民の森は、四季折々の景観や、色々な動植物とふれ合える自然の宝庫です。広大な森は、「出会いの森」「生活の森」「冒険の森」「野鳥の森」「ブナの森」の5つのゾーンに分けられ、色々な森の楽しさを満喫できます。

**主なイベント** 木工教室（ダイニングテーブル、調味料棚、木馬等）  
自然教室（野鳥観察、昆虫観察、星座観察とアニマルウォッチング）

**場所**：東京都西多摩郡檜原村7146 Tel. 042-598-6006

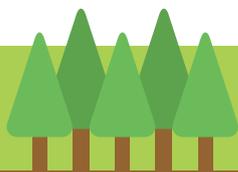
**交通**：JR五日市線武蔵五日市駅から数馬まで西東京バス 60 分、数馬から連絡バス 15 分 車：圏央道日の出IC、中央道八王子IC、中央道上野原ICから一般道

**ホームページ**：<http://www.hinohara-mori.jp/>

**施設**：森林館（研修室、レストランなど）、木材工芸センター、野鳥観察小屋、休憩小屋、炭焼き釜、売店（案内所）、森林セラピーロード（大滝の路）

**面積**：197ha

原村



# 多摩の森とふれ合う・調べる



## ●山の仕事を体験しよう!

### ■とうきょう林業サポート隊

ボランティアとして、多摩の森林で植栽や下刈りなどの森林作業に携わり、森づくりをサポートする活動を行っています。  
<http://ringyou-support.tokyo/>



## ●東京の森や林業について知ろう!

### ■東京の木・森のしごとwebサイト

東京の森林や林業について学べます。  
森や多摩産材とふれあえるイベント情報掲載。  
<http://mokuiku.metro.tokyo.jp/>

### 東京の木・森のしごと



### ■東京の森と木の情報ポータルサイト 東京の森と木

東京の森に関わる様々な情報を発信しています。多摩産材を扱うお店や、お出かけスポットなどを探すこともできます。  
<http://www.tamamori.jp/>

## ●自然や動植物、歴史などについて学ぶ!

### ■奥多摩ビジターセンター（奥多摩町・無料） 自然教室あり

周辺の自然環境や観光情報のほか登山情報も紹介。花の情報も多数あります。  
奥多摩ビジターセンターホームページ：<http://www.okutama-vc.com/>

### ■御岳ビジターセンター（青梅市・無料） 自然教室などの行事あり

御岳山の上に設けられ、パネルやスライド、ジオラマで、周辺の自然や登山の情報を紹介。  
御岳ビジターセンターホームページ：<http://mitakevc929.ec-net.jp/>

### ■御岳インフォメーションセンター（青梅市・無料）

JR御岳駅前であり、美術館も併設。「関東ふれあいのみち」の紹介なども。

### ■高尾ビジターセンター（八王子市・無料） ガイドウォーク（観察会）あり

高尾山の山頂（標高 599 m）にあり、高尾山周辺の自然や歴史などの情報を紹介。  
高尾ビジターセンターホームページ：<http://takaovc599.ec-net.jp/>

### ■小峰ビジターセンター（あきる野市・無料） 自然教室あり

東京都立小峰公園の中にあり、周辺の自然解説や野外リクリエーションの普及などを行っています。  
小峰ビジターセンターホームページ：<http://komine-park.sakura.ne.jp/>





## ●東京の森や自然について さらに調べよう!

### ■総合的な花粉症対策

(東京都産業労働局)

<http://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.jp/nourin/ringyou/promotion/kafun/index.html>

### ■東京都森林事務所WEBサイト

「学習コーナー」

(東京都産業労働局)

<http://www.forestry-office.metro.tokyo.jp/study/index.html>

### ■緑の創出と自然環境の保全

(東京都環境局)

<http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/nature/index.html>

森づくりの情報はこちらにもあります。

### ■こども森林館

(林野庁)

<http://www.rinya.maff.go.jp/kids/top.html>

### ■奥多摩町日原森林館

(奥多摩町・大人200円、小中学生100円)

鍾乳洞もある日原にあり、巨樹をテーマとしてパネルや写真を展示。パソコンで全国の巨樹も検索出来ます。

ホームページ：<http://www.kyoju.jp/>

### ■奥多摩 水と緑のふれあい館

(奥多摩町・無料)

小河内ダムの近くにあり、周辺の自然や水源林について映像や3Dシアターで紹介しています。

ホームページ：

<https://www.waterworks.metro.tokyo.jp/kouhou/pr/okutama/>

## ●森林ボランティアについて調べる!

### ■森林・緑地保全活動情報センター

(東京都環境局)

<http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/nature/volunteer/center/index.html>

### ■多摩川水源森林隊

(東京都水道局)

<http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/kouhou/sinrintai/>

### ■多摩の森・大自然塾

(特定非営利活動法人 森づくりフォーラム)

[http://www.moridukuri.jp/tama/forest\\_tama.html](http://www.moridukuri.jp/tama/forest_tama.html)

印刷物規格表 第1類

登録番号(28)54

## 森づくりについて考えよう

森のヒミツ・森のチカラ

編集・発行 〒163-8001  
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
東京都産業労働局農林水産部森林課  
TEL: 03-5320-4867  
FAX: 03-5388-1466

印 刷 東京都同胞援護会事業局  
電話: 03(5669)0261

この紙は、東京の木25%、古紙75%を使用した東京の木の紙です。